

SANNIX

for Energy, for Environment

Photovoltaic Solution

Total Sanitation

Environmental Resources Development

2018年3月期 第1四半期 決算説明会

株式会社サニックス

2017年 8月10日

1. 2018年3月期 第1四半期 決算概況 P.3

2. 2018年3月期 通期 業績見通し P.17

【免責事項】

本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定買取制度」の動向および当該制度に関わる電力会社の動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。

本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

(注)

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「－」で表示しております。



for Energy, for Environment
Photovoltaic Solution
Total Sanitation
Environmental Resources Development

1. 2018年3月期 第1四半期 決算概況

第1四半期 連結決算概況

(単位：百万円)

	2017/3期	2018/3期				
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	前年同期差異	計画	計画差異
売上高	11,358	12,098	106.5%	+ 739	11,779	+ 319
売上総利益	3,074	3,722	121.1%	+ 647	3,504	+ 218
(売上高売上総利益率)	27.1%	30.8%			29.7%	
営業利益	△ 446	396	—	+ 842	296	+ 100
(売上高営業利益率)	—	3.3%			2.5%	
経常利益	△ 368	292	—	+ 661	252	+ 40
(売上高経常利益率)	—	2.4%			2.1%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 621	209	—	+ 831	195	+ 14
(売上高四半期純利益率)	—	1.7%			1.7%	

- ①売上高 太陽光発電に係る市場規模縮小の影響を受けS E事業部門は減収となったが、人員等経営資源の適正配分を進めたことでH S事業部門、E S事業部門がそれぞれ増収となり、新電力事業が拡大したことにより環境資源開発事業部門が増収となった。この結果、グループ全体の売上高は12,098百万円（前年同期比6.5%増）となった。
- ②利益 経営合理化等による経費削減及び材料原価の低減などにより、4事業部門とも収益性の改善が進んだ。この結果、グループ全体の損益は、396百万円の営業利益（前年同期は446百万円の営業損失）、292百万円の経常利益（前年同期は368百万円の経常損失）、209百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益（前年同期は621百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となった。

(1) 組織改編の目的

2016年4月公表の中期経営計画に基づき、1年目は人員削減、店舗統廃合等経営合理化策を進めてきた。2年目となる今期に入り、現有人員の能力を最大限発揮できるような効率的な組織運営実現に向け、組織改編を行なった。

(2) 組織改編の概要

① S E・H S・E S 事業統括本部の新設

- 3事業が連携し効果的な営業活動を行うため『S E・H S・E S 事業統括本部』を新設
- 西日本・東日本 S E 事業部を『S E 事業本部』へ統合
東西で7つあった地区本部を4つに統合
- 『H S 事業本部』で4つあった地区本部を3つに統合
- 施工における柔軟な人員体制を図るため、3事業部の技術体制を『技術部』が統括
- 業務提携等を推進する『特別販売部』を、各事業横断的に展開するため『S E・H S・E S 事業統括本部』の直轄へ移行

② 管理本部の再編

- 本社管理部門が横断的・機能的に、より連携できるよう『管理本部』を新設
- 人材の育成と適正配置を推進するため、人事部と教育部を『人事教育部』に統合

③ その他

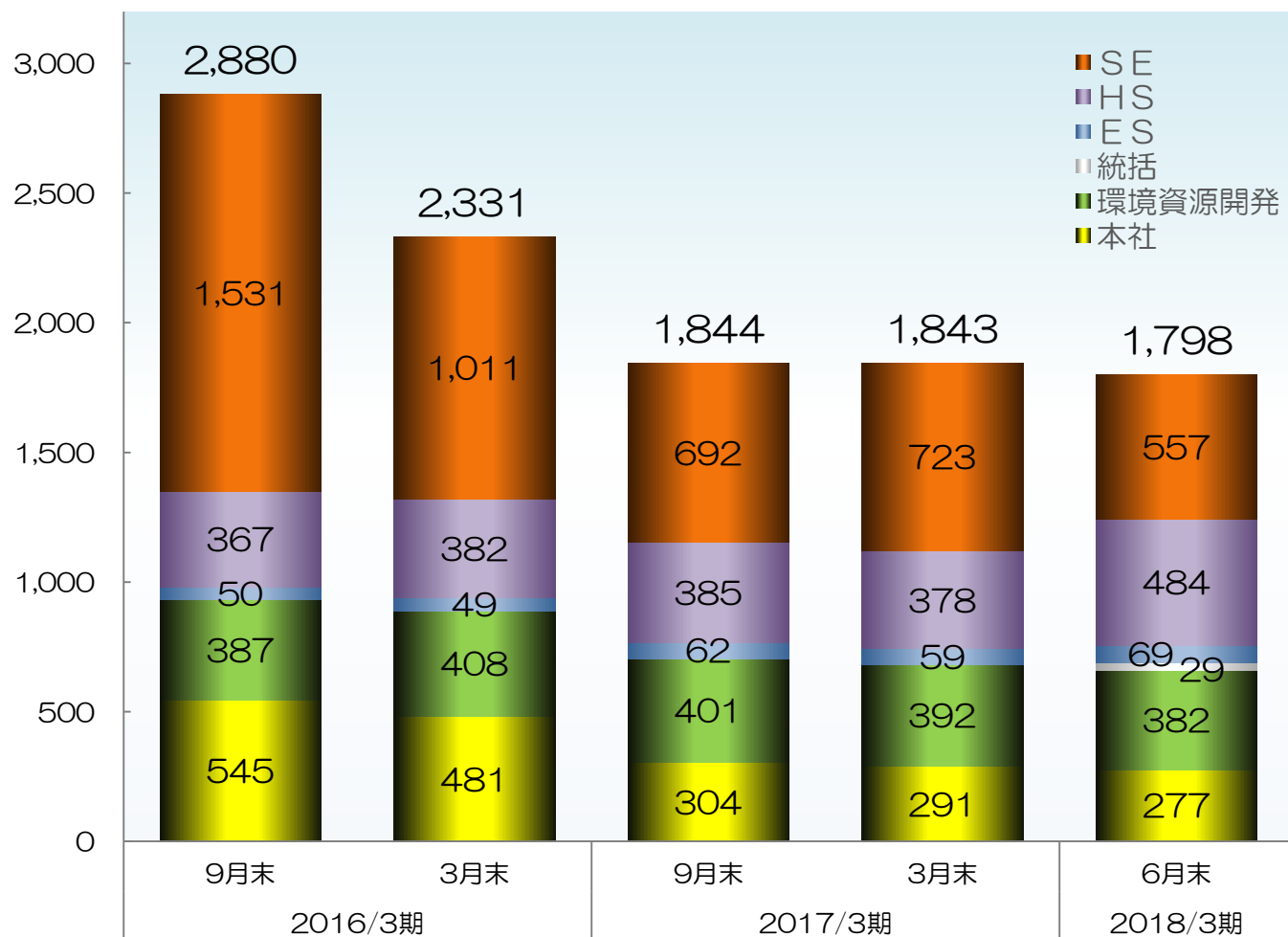
- 今後の事業戦略を策定する社長直轄部署として『事業戦略室』を新設
- 蓄電池等、エネルギー関連の開発企画全般を担う部署として『開発企画部』を新設

人員の状況

事業部門間の人員の異動を実施

太陽光発電市場の縮小に即した体制構築、HS事業並びにES事業の再強化を基本に、バランスのとれた経営資源の配分を行うべく、4月にSE事業部門からHS事業部門並びにES事業部門へ人員の一部を異動した。

(人員数：人)



【SE・HS・ES統括本部下の人員】

	2017/3期 3月末	2018/3期 6月末
SE	135	100
HS	103	158
ES	20	21
統括	—	8
営業計	258	287
SE	422	354
HS	183	190
ES	28	32
技術計	633	576
SE	166	103
HS	92	136
ES	11	16
統括	—	21
事務計	269	276
SE	723	557
HS	378	484
ES	59	69
統括	—	29
合計	1,160	1,139

第1四半期 セグメント別損益実績

(単位：百万円)

	2017/3期		2018/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画差異	計画売上比
売上高	11,358		12,098		106.5%	+ 319	
S E 部門	5,757	50.7%	4,500	37.2%	78.2%	Δ 129	39.3%
H S 部門	1,655	14.6%	2,329	19.3%	140.8%	+ 295	17.3%
E S 部門	232	2.0%	310	2.6%	133.3%	+ 52	2.2%
環境資源開発部門	3,713	32.7%	4,957	41.0%	133.5%	+ 100	41.2%
売上総利益	3,074	27.1%	3,722	30.8%	121.1%	+ 218	29.7%
販売費・一般管理費	3,520	31.0%	3,325	27.5%	94.5%	+ 117	27.2%
営業利益	Δ 446	—	396	3.3%	—	+ 100	2.5%
S E 部門	Δ 68	—	442	(9.8%)	—	Δ 113	(12.0%)
H S 部門	253	(15.3%)	402	(17.3%)	158.8%	+ 91	(15.3%)
E S 部門	14	(6.0%)	40	(12.9%)	284.7%	+ 42	—
環境資源開発部門	128	(3.5%)	338	(6.8%)	264.0%	+ 40	(6.1%)
配賦不能	Δ 773	—	Δ 826	—	—	+ 40	—

・各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を()内に表示しております。

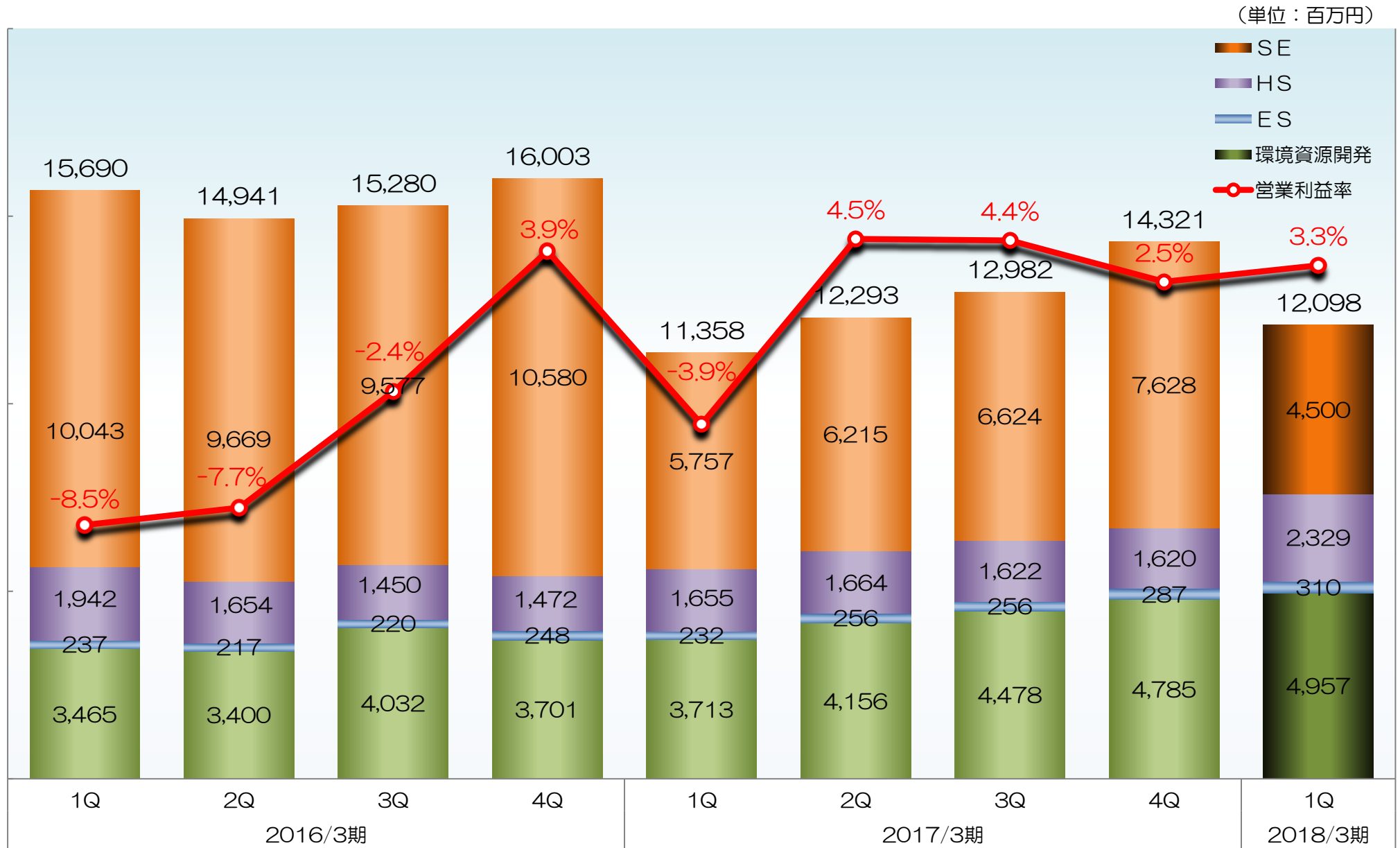
【参考】セグメント別四半期実績の推移

(単位：百万円)

	2017/3期								2018/3期	
	1 Q		2 Q		3 Q		4 Q		1 Q	
	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比
売上高	11,358		12,293		12,982		14,321		12,098	
SE部門	5,757	50.7%	6,215	50.6%	6,624	51.0%	7,628	53.3%	4,500	37.2%
HS部門	1,655	14.6%	1,664	13.5%	1,622	12.5%	1,620	11.3%	2,329	19.3%
ES部門	232	2.0%	256	2.1%	256	2.0%	287	2.0%	310	2.6%
環境資源開発部門	3,713	32.7%	4,156	33.8%	4,478	34.5%	4,785	33.4%	4,957	41.0%
売上総利益	3,074	27.1%	3,633	29.6%	3,775	29.1%	3,660	25.6%	3,722	30.8%
販売費・一般管理費	3,520	31.0%	3,083	25.1%	3,203	24.7%	3,298	23.0%	3,325	27.5%
営業利益	△ 446	—	549	4.5%	571	4.4%	361	2.5%	396	3.3%
SE部門	△ 68	—	453	(7.3%)	861	(13.0%)	421	(5.5%)	442	(9.8%)
HS部門	253	(15.3%)	259	(15.6%)	253	(15.6%)	212	(13.1%)	402	(17.3%)
ES部門	14	(6.0%)	16	(6.3%)	25	(9.8%)	39	(13.7%)	40	(12.9%)
環境資源開発部門	128	(3.5%)	449	(10.8%)	100	(2.2%)	351	(7.3%)	338	(6.8%)
配賦不能	△ 773	—	△ 629	—	△ 670	—	△ 662	—	△ 826	—

・各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を()内に表示しております。

セグメント別売上高の推移



第1四半期 セグメント別実績【SE事業部門】

(単位:百万円)

	2017/3期		2018/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高合計	5,757		4,500		78.2%	4,630	
太陽光発電システム							
施工売上	5,238	91.0%	4,147	92.2%	79.2%	4,399	95.0%
卸販売	488	8.5%	266	5.9%	54.6%	200	4.3%
その他	30	0.5%	86	1.9%	285.1%	30	0.7%
売上原価	4,269	74.2%	2,998	66.6%	70.2%	3,111	67.2%
うち、材料費等*	2,916	50.7%	1,901	42.3%	65.2%	2,019	43.6%
うち、労務費	707	12.3%	403	9.0%	57.0%	464	10.0%
売上総利益	1,487	25.8%	1,501	33.4%	100.9%	1,519	32.8%
販売費・一般管理費	1,556	27.0%	1,059	23.5%	68.1%	963	20.8%
うち、人件費	584	10.2%	439	9.8%	75.1%	389	8.4%
その他	971	16.9%	620	13.8%	63.9%	573	12.4%
営業利益	△68	—	442	9.8%	—	556	12.0%

※材料費等は、材料費と消耗品費を合算しております。

「太陽光発電システム」が減収となった。太陽光発電における市場規模縮小の影響を受け、産業用太陽光発電の施工件数が減少したことが主因である。この結果、売上高は4,500百万円(前年同期比21.8%減)となった。

営業損益は、減収となったものの、経営合理化による経費削減、材料原価の低減、人件費削減等が寄与したことにより、442百万円の営業利益(前年同期は68百万円の営業損失)となった。

【参考】SE事業部門損益の四半期推移

(単位：百万円)

	2017/3期								2018/3期	
	1 Q		2 Q		3 Q		4 Q		1 Q	
	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比
売上高	5,757		6,215		6,624		7,628		4,500	
売上原価	4,269	74.2%	4,428	71.3%	4,367	65.9%	5,736	75.2%	2,998	66.6%
材料費等 [※]	2,916	50.7%	3,152	50.7%	2,995	45.2%	4,256 ^①	55.8%	1,901	42.3%
労務費	707	12.3%	555	8.9%	496	7.5%	494	6.5%	403	9.0%
外注加工費	152	2.6%	245	4.0%	340	5.1%	445	5.8%	227	5.1%
その他	492	8.6%	475	7.7%	534	8.1%	540	7.1%	465	10.4%
売上総利益	1,487	25.8%	1,786	28.7%	2,257	34.1%	1,891	24.8%	1,501	33.4%
販売費・一般管理費	1,556	27.0%	1,332	21.4%	1,395	21.1%	1,469	19.3%	1,059	23.5%
人件費	584	10.2%	503	8.1%	511	7.7%	594	7.8%	439	9.8%
その他	971	16.9%	829	13.4%	883	13.3%	874	11.5%	620	13.8%
営業利益	△ 68	—	453	7.3%	861	13.0%	421	5.5%	442	9.8%

※ 材料費等は、材料費と消耗品費を合算しております。

- ① 2017/3期4Qの材料費等は、自社製パワコンコンディショナに係る棚卸資産の評価を見直した結果、棚卸資産評価損777百万円を計上した。当該評価損の影響を除いた場合の売上比は45.6%である。

第1四半期 セグメント別実績【HS事業部門】

(単位：百万円)

	2017/3期		2018/3期				
	1Q 実績	売上比	1Q 実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	1,655		2,329		140.8%	2,034	
白蟻防除施工	634	38.3%	728	31.3%	114.8%	789	38.8%
床下・天井裏換気 システム	186	11.2%	315	13.5%	169.5%	246	12.1%
基礎補修・ 家屋補強工事	144	8.7%	460	19.8%	318.4%	276	13.6%
その他	689	41.6%	825	35.4%	119.6%	721	35.4%
売上原価	791	47.8%	1,037	44.5%	131.1%	936	46.0%
売上総利益	864	52.2%	1,292	55.5%	149.6%	1,098	54.0%
販売費・一般管理費	610	36.9%	890	38.2%	145.8%	787	38.7%
営業利益	253	15.3%	402	17.3%	158.8%	311	15.3%

HS事業部門は、事業規模拡大を目的にグループ間の異動による人員の増加を図り、「白蟻防除施工」や「基礎補修・家屋補強工事」等家屋の維持保全関連の営業及び施工体制を強化した。この結果、売上高は2,329百万円（前年同期比40.8%増）となった。

営業損益は、人員増により人件費等コストが増加したものの、増収幅が大きかったことにより、402百万円の営業利益（前年同期比58.8%増）となった。

限界利益率・損益分岐売上高の推移

■SE事業部門の推移

	2017/3期				2018/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
限界利益率 (%)	43.5	42.1	46.3	45.6	48.4
月平均固定費 (百万円/月)	857	719	734	758	578
損益分岐売上高 (百万円/月)	1,971	1,711	1,586	1,664	1,193

2017/3期4Qの限界利益率については、材料費に含まれる棚卸資産評価損777百万円は除く。

■HS事業部門の推移

	2017/3期				2018/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
限界利益率 (%)	68.6	66.6	67.1	67.3	70.9
月平均固定費 (百万円/月)	349	350	350	351	397
損益分岐売上高 (百万円/月)	509	526	522	522	560

※売上高に占める変動費(材料費・外注加工費等)を除いた率を限界利益率として表示。

損益分岐売上高＝固定費÷限界利益率

第1四半期 セグメント別実績【ES事業部門】

(単位：百万円)

	2017/3期		2018/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	232		310		133.3%	258	
売上原価	144	61.9%	160	51.8%	111.6%	168	65.1%
売上総利益	88	38.1%	149	48.2%	168.4%	90	34.9%
販売費・一般管理費	74	32.1%	109	35.3%	146.4%	92	35.7%
営業利益	14	6.0%	40	12.9%	284.7%	△2	—

ES事業部門は、事業規模拡大を目的にグループ間の異動による人員の増加を図り、「防錆機器取付施工」を主力商品としてビル・マンション等の建物維持保全関連の営業及び施工体制を強化した。この結果、売上高は310百万円（前年同期比33.3%増）となった。

営業損益は、人員増により人件費等コストが増加したものの、増収幅が大きかったことにより、40百万円の営業利益（前年同期比184.7%増）となった。

第1四半期 セグメント別実績【環境資源開発事業部門】

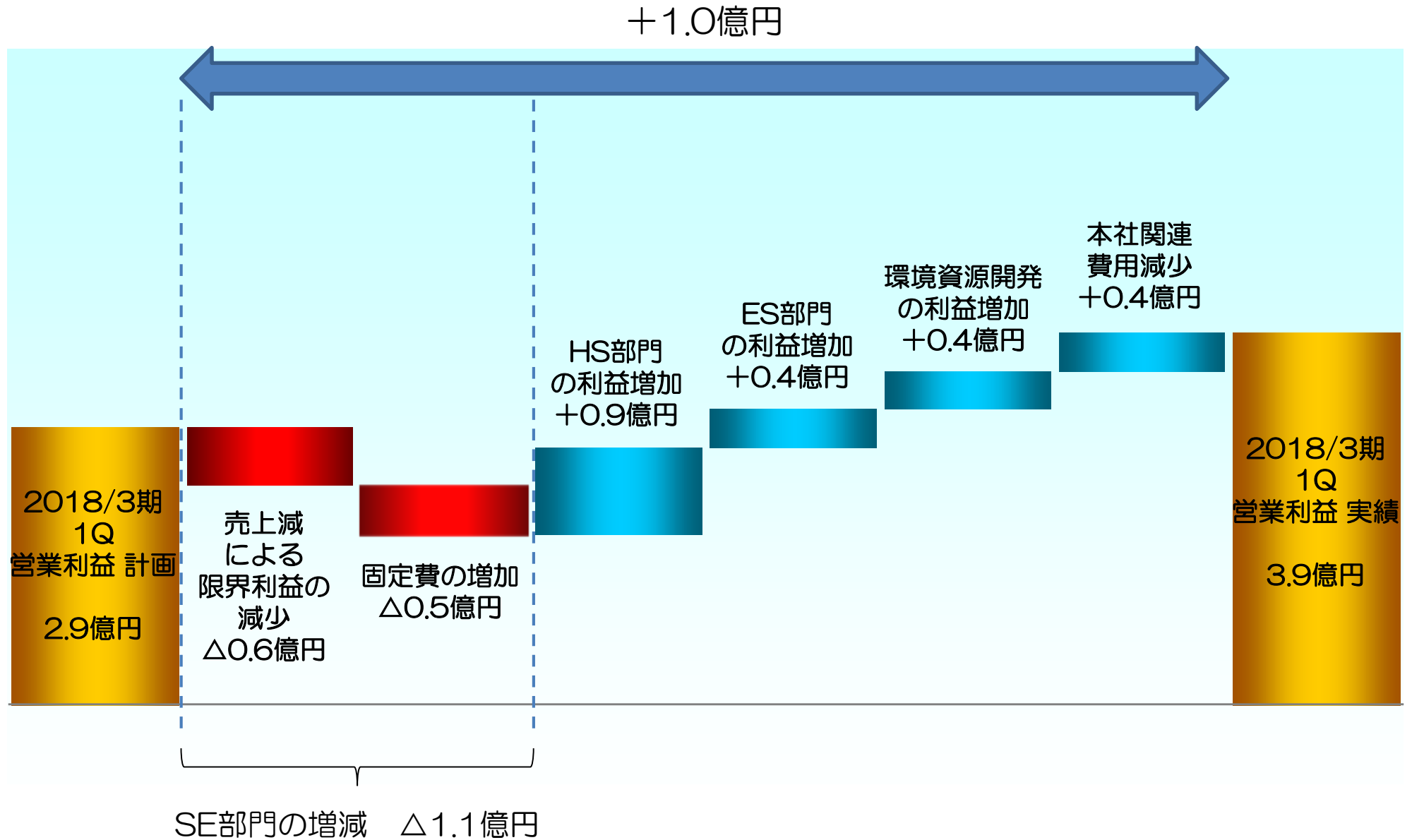
(単位：百万円)

	2017/3期		2018/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高合計	3,713		4,957		133.5%	4,857	
プラスチック燃料	1,698	45.7%	1,835	37.0%	108.0%	1,819	37.5%
売電収入	1,224	33.0%	2,318	46.8%	189.3%	2,277	46.9%
（うち新電力事業収入）	317	8.5%	1,426	28.8%	449.4%	1,337	27.5%
有機廃液処理	410	11.0%	460	9.3%	112.3%	420	8.6%
埋立処理	172	4.7%	164	3.3%	95.1%	158	3.3%
その他	207	5.6%	179	3.6%	86.7%	182	3.8%
売上総利益	633	17.1%	778	15.7%	122.8%	797	16.4%
販売費・一般管理費	505	13.6%	439	8.9%	87.0%	499	10.3%
営業利益	128	3.5%	338	6.8%	264.0%	298	6.1%

環境資源開発事業部門は、「プラスチック燃料」は前年同期比8.0%増、「有機廃液処理」は前年同期比12.3%増となった。また「売電収入」は前連結会計年度第2四半期以降に電力契約先が増加したことを主因に前年同期比89.3%増となった。この結果、売上高は4,957百万円（前年同期比33.5%増）となった。

営業損益は、効率性・採算性を重視する施策のもと、廃プラスチック類の受入単価アップにより収益性が改善したことや、苫小牧発電所の修繕費が減少したことなどにより、338百万円の営業利益（前年同期比164.0%増）となった。

【参考】 営業利益 増減理由 (第1四半期_計画対実績)





for Energy, for Environment
Photovoltaic Solution
Total Sanitation
Environmental Resources Development

2. 2018年3月期 通期 業績見通し

業績見通しに変更はありません。

(単位：百万円)

	2017/3期	2018/3期		
	実績	計画	前期比	前期差異
売上高	50,955	47,680	93.6%	Δ 3,275
売上総利益	14,142	13,440	95.0%	Δ 702
(売上高売上総利益率)	27.8%	28.2%		
営業利益	1,036	1,210	116.7%	+ 173
(売上高営業利益率)	2.0%	2.5%		
経常利益	907	1,090	120.2%	+ 182
(売上高経常利益率)	1.8%	2.3%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	416	810	194.7%	+ 393
(売上高当期純利益率)	0.8%	1.7%		



2018年3月期の連結業績予想については、5月11日に公表した連結業績予想に変更はありません。

中期経営計画2年目の当期は、組織改編や事業部間の人員の異動を的確に行い、持続的な黒字化、継続的な成長を引き続き図ることにより、4事業からの安定的な収益を実現していく。

業績見通しに変更はありません。

(単位:百万円)

		2018/3期									
		上半期			下半期			通期			
		計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異	
売	上	高	23,656		+ 4	24,024		Δ 3,279	47,680		Δ 3,275
	S E	部 門	9,162	38.7%	Δ 2,810	8,991	37.4%	Δ 5,261	18,153	38.1%	Δ 8,072
	H S	部 門	4,003	16.9%	+ 683	3,854	16.0%	+ 611	7,857	16.5%	+ 1,294
	E S	部 門	575	2.4%	+ 85	694	2.9%	+ 149	1,269	2.7%	+ 235
	環境資源開発部門		9,916	41.9%	+ 2,045	10,485	43.6%	+ 1,221	20,401	42.8%	+ 3,267
売上総利益			6,328	26.8%	Δ 379	7,112	29.6%	Δ 323	13,440	28.2%	Δ 702
販売費・一般管理費			6,248	26.4%	Δ 356	5,982	24.9%	Δ 520	12,230	25.7%	Δ 876
営業利益			80	0.3%	Δ 23	1,130	4.7%	+ 196	1,210	2.5%	+ 173
	S E	部 門	1,068	(11.7%)	+ 682	1,059	(11.8%)	Δ 224	2,127	(11.7%)	+ 457
	H S	部 門	565	(14.1%)	+ 51	473	(12.3%)	+ 7	1,038	(13.2%)	+ 58
	E S	部 門	22	(3.8%)	Δ 8	77	(11.1%)	+ 12	99	(7.8%)	+ 4
	環境資源開発部門		35	(0.4%)	Δ 542	905	(8.6%)	+ 453	940	(4.6%)	Δ 89
	配賦不能		Δ 1,610	—	Δ 207	Δ 1,384	—	Δ 51	Δ 2,994	—	Δ 258
経常利益			0	0.0%	Δ 202	1,090	4.5%	+ 385	1,090	2.3%	+ 182
親会社株主に帰属 する当期純利益			Δ 100	—	+ 46	910	3.8%	+ 347	810	1.7%	+ 393

・各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を()内に表示しております。

今期の課題

SE事業部門

- ・市場縮小に適した体制の構築
- ・法令改正等による市場環境の変化への対応

HS事業部門

- ・顧客減少抑制の管理体制整備
- ・新商品導入による顧客提案メニューの増加

ES事業部門

- ・紹介案件増に向けアライアンスの拡大・強化
- ・防錆機器の販売強化

環境資源開発事業部門

- ・廃プラスチック受入量の回復
- ・発電所の効率的な稼働
- ・新電力事業の採算性向上

本社部門

- ・部門間の連携強化
- ・今後の成長にむけた企画部門の強化・充実

現在の進捗状況

- ・組織・人員体制の構築は完了
- ・法令改正後、事業計画認定までの期間が遅延しているため、施工が遅れる懸念があり、一層のコスト管理に努める

- ・これまで十分でなかった顧客管理の強化を図り、成果が出ている
- ・更なる売上拡大を目指し、新商品・新サービスの展開を適時進める

- ・人員増加により顧客管理の強化を図った結果、第1四半期では防錆機器の販売拡大に成果が出た
- ・ビル・マンション管理会社を中心にアライアンスを行っており、今後の売上基盤として更に拡大を図る

- ・廃プラスチック受入量は回復しつつあるが、受入単価値上げ前の水準には達していない
- ・第2四半期は発電所の法定点検があるため、赤字の見込み
- ・新電力事業は、調達コスト低減のため電力取引市場外からの調達比率の向上を図る

- ・本社管理部門横断的連携の促進、進捗管理の徹底
- ・開発生産部門において新商品、新事業の開発力強化
- ・新規事業の企画・提案増加

業績見通しに変更はありません。

(単位:百万円)

	2018/3期								
	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高合計	9,162		Δ 2,810	8,991		Δ 5,261	18,153		Δ 8,072
太陽光発電システム									
施工売上	8,750	95.5%	Δ 2,260	8,650	96.2%	Δ 4,567	17,400	95.9%	Δ 6,828
卸販売	350	3.8%	Δ 550	300	3.3%	Δ 688	650	3.6%	Δ 1,239
その他	61	0.7%	+ 0	40	0.4%	Δ 5	102	0.6%	Δ 5
売上原価	6,183	67.5%	Δ 2,515	6,024	67.0%	Δ 4,079	12,207	67.2%	Δ 6,595
うち、材料費等※	4,030	44.0%	Δ 2,037	3,923	43.6%	Δ 3,328	7,954	43.8%	Δ 5,366
うち、労務費	926	10.1%	Δ 336	928	10.3%	Δ 62	1,854	10.2%	Δ 399
売上総利益	2,979	32.5%	Δ 295	2,967	33.0%	Δ 1,181	5,946	32.8%	Δ 1,477
販売費・一般管理費	1,911	20.9%	Δ 978	1,908	21.2%	Δ 957	3,819	21.0%	Δ 1,935
うち、人件費	777	8.5%	Δ 309	801	8.9%	Δ 304	1,579	8.7%	Δ 614
その他	1,133	12.4%	Δ 668	1,106	12.3%	Δ 652	2,239	12.3%	Δ 1,320
営業利益	1,068	11.7%	+ 682	1,059	11.8%	Δ 224	2,127	11.7%	+ 457

※材料費等は、材料費と消耗品費を合算しております。

SE事業部門は、太陽光発電事業の市場環境は依然として厳しく、減収は避けられない見通しである。また、FIT法改正による新規事業計画申請について、6月に資源エネルギー庁から発表があったとおり、審査期間が長くなっている状況であり、この状況が継続すれば、業績に影響があるため、今後の状況を注視していく必要がある。利益については、組織改編による人員配置見直しにより人件費等の固定費は削減しているが、部材のコストダウン等により原価低減を進め、さらに収益性の向上を図る。

業績見通しに変更はありません。

(単位:百万円)

	2018/3期								
	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高	4,003		+ 683	3,854		+ 611	7,857		+ 1,294
白蟻防除施工	1,449	36.2%	+ 237	1,203	31.2%	+ 255	2,652	33.8%	+ 492
床下・天井裏換気 システム	510	12.7%	+ 23	491	12.8%	+ 123	1,001	12.8%	+ 147
基礎補修・ 家屋補強工事	525	13.1%	+ 238	593	15.4%	+ 298	1,119	14.3%	+ 537
その他	1,517	37.9%	+ 183	1,565	40.6%	△ 66	3,083	39.2%	+ 117
売上原価	1,900	47.5%	+ 268	1,890	49.0%	+ 244	3,790	48.2%	+ 513
売上総利益	2,103	52.5%	+ 414	1,964	51.0%	+ 366	4,067	51.8%	+ 781
販売費一般管理費	1,538	38.4%	+ 362	1,491	38.7%	+ 359	3,029	38.6%	+ 722
営業利益	565	14.1%	+ 51	473	12.3%	+ 7	1,038	13.2%	+ 58

HS事業部門は、SE事業部門からの異動による増員によって、新規顧客の開拓及び既存顧客管理を強化することで、増収を見込んでいる。第1四半期は計画を上回っており、第2四半期以降も現在の取り組みを継続し事業再建を図る。

利益については、人員増により固定費は増加するが、売上高増により費用増を吸収し、増益の見込みである。

業績見通しに変更はありません。

(単位:百万円)

	2018/3期								
	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高合計	575		+ 85	694		+ 149	1,269		+ 235
売上原価	364	63.3%	+ 58	420	60.5%	+ 102	784	61.8%	+ 160
売上総利益	211	36.7%	+ 27	274	39.5%	+ 46	485	38.2%	+ 74
販売費・一般管理費	189	32.9%	+ 35	197	28.4%	+ 34	386	30.4%	+ 70
営業利益	22	3.8%	△ 8	77	11.1%	+ 12	99	7.8%	+ 4

ES事業部門は、SE事業部門からの異動による増員を図り、既存顧客のアフター体制を強化するとともに、ビル・マンション等の管理会社とのアライアンス等を強化し、特に「防錆機器取付施工」を主力商品とし、新規顧客の開拓を強化する。

利益については、人員増により固定費は増加するが、売上高増により費用増を吸収し、増益の見込みである。

業績見通しに変更はありません。

(単位:百万円)

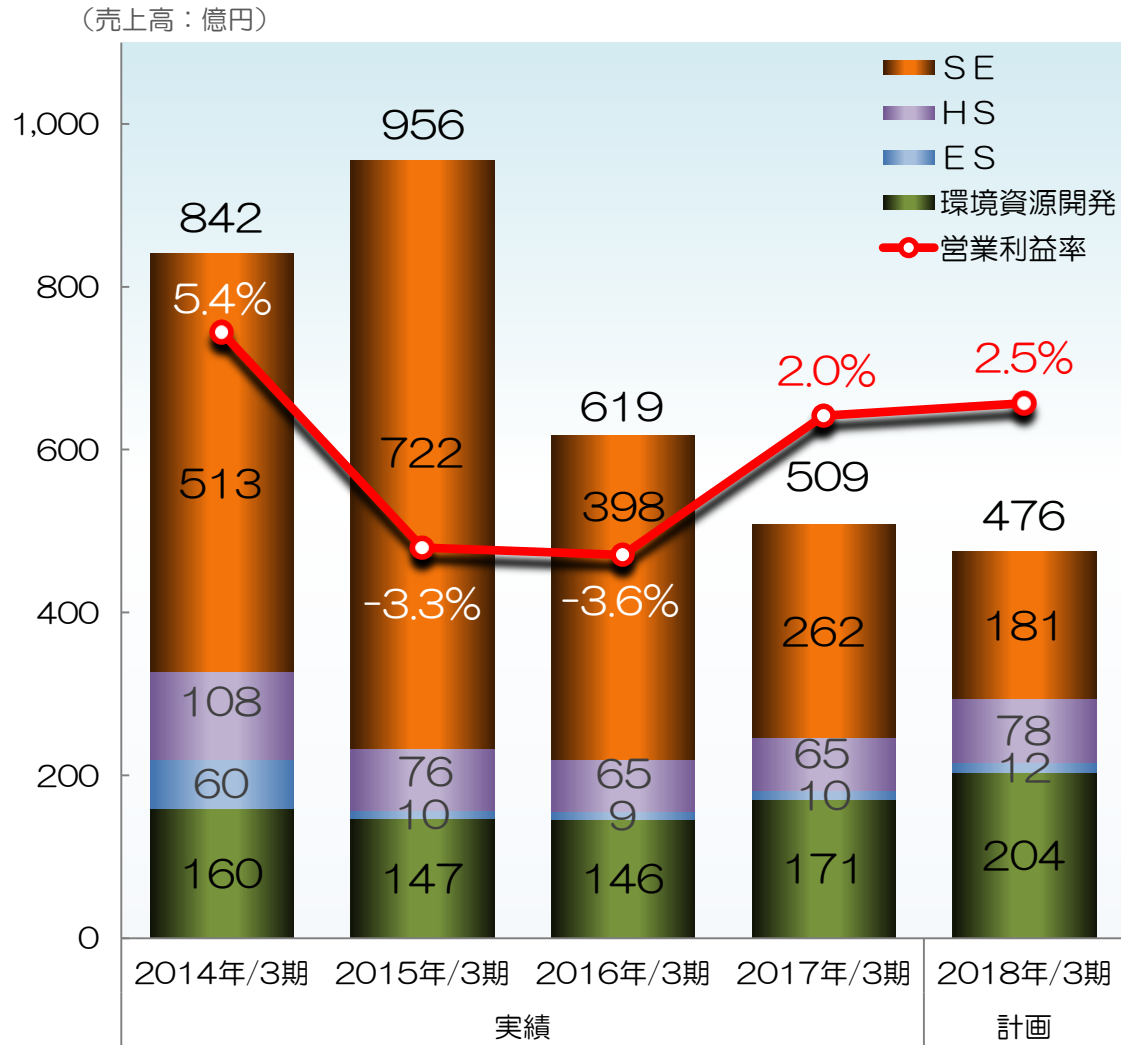
	2018/3期								
	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高合計	9,916		+2,045	10,485		+1,221	20,401		+3,267
プラスチック燃料	3,618	36.5%	+168	3,743	35.7%	+54	7,361	36.1%	+222
売電収入	4,773	48.1%	+1,983	5,272	50.3%	+1,255	10,045	49.2%	+3,238
（新電力事業収入）	3,026	30.5%	+2,139	3,197	30.5%	+1,157	6,223	30.5%	+3,297
有機廃液処理	850	8.6%	△8	893	8.5%	△17	1,743	8.5%	△25
埋立処理	311	3.1%	△71	236	2.3%	△29	547	2.7%	△101
その他	363	3.7%	△25	340	3.2%	△41	704	3.5%	△66
売上総利益	1,035	10.4%	△526	1,907	18.2%	+444	2,942	14.4%	△81
販売費・一般管理費	1,000	10.1%	+16	1,002	9.6%	△8	2,002	9.8%	+7
営業利益	35	0.4%	△542	905	8.6%	+453	940	4.6%	△89

環境資源開発事業部門は、新電力事業における前期中の契約数の増加に加え、今期も契約数の拡大を図り、売電収入の大幅増を見込む。

利益については、第2四半期に苫小牧発電所のボイラー法定点検（2年に一度）を実施するためコスト増となるが、前期からの効率性・採算性を重視する施策のもと、廃プラスチック類の単価改定が収益に寄与することや、処分費等のコスト削減等によって、今後、減益幅の縮小を図る。

業績見通しに変更はありません。

■ 2018年3月期セグメント別売上高・営業利益率の見通し



2018年3月期見通し

売上高：**47,680**百万円

営業利益：**1,210**百万円

営業利益率：**2.5%**

・2014/3期の実績については、SE事業部門は旧産業用PV部門の実績であり、HS・ES事業部門は太陽光発電システムの実績を含めて表示しております。